



# 金子アキコ

## 市議会レポート

VOL.1 発行日：2025 5/15

厚生委員 議会運営委員  
まちづくり公社諮問委員発行元：八王子市議会  
八王子・生活者ネットワーク  
(発行責任者：金子アキコ)

〒192-0066 八王子市本町3-4 TRYビル3階

■TEL：042-623-8802

■FAX：042-627-4507

■メール：hachiouji-net@nifty.com

困難女性の居住支援を行う  
「六甲ウィメンズハウス」視察

市議会議員となって2年が経過し、一期4年の折り返し地点です。これまで厚生委員会に所属し、介護保険制度、障がい福祉サービス、子どもの権利等について市民の皆さんの声を行政に届け、福祉の拡充を求めてきました。任期3年目の今年は、新たな委員会に所属することになります。どうか引き続きみなさんのご意見をお寄せください。

### 予算等審査特別委員会 総括質疑

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律  
(女性支援新法)」施行から1年  
法が目指す女性支援の姿を市は捉えているか

#### 女性支援新法とは

コロナ禍以降、雇用の不安定さ、DV・性暴力被害、家庭内無償ケアの負担増に起因する女性の生きづらさが浮き彫りになりました。女性支援新法は、そうした女性であるがゆえの困難な問題を社会の問題として捉え、女性の人権を尊重し、福祉的支援を充実させることで女性が安心して暮らせる社会の実現を目指すもので、自治体には法に基づく実務を行う責務があります。私たち八王子・生活者ネットワークはジェンダー平等社会の実現を目指し、これまでもこのテーマで繰り返し質問をしてきました。

#### 新法に基づく支援体制整備

女性支援新法に基づきこの1年で八王子市は、男女共同参画センターの相談支援員が総合窓口となって、離婚調停・心理相談・弁護士等の有資格者による専門相談員、福祉事務所に所属しDV等の相談支援を行う女性相談支援員、その他関係機関に繋いでいく支援体制を構築してきました。男女共同参画センターと福祉事務所がこれまで別々に行なってきた女性相談支援を一体的に行う形で、市側でも両者の協議の機会が増え、情報共有や緊急対応時の連携が強化されてきた実感があるとの

ことです。

一方その支援の中身については、相談支援員による同行支援（当事者が関係機関に出向く際に職員が同行すること）等も始まったものの、従来の支援内容から今一つ変化に乏しい印象を受けました。

#### 新法の理念に沿った当事者中心の支援を

そのため、現在行われている女性相談支援が、女性支援新法の理念である「心身の健康の回復のための援助」「支援を受ける当事者の意思の尊重」「女性が自立して生活するための長期的伴走支援」「民間団体との対等な立場での協働」等に沿うものとなっているか検証する必要性を訴えました。また、若年女性やシングル中高年女性など、これまで可視化されてこなかった女性たちの抱える問題についても積極的に目を向けてほしいと要望しました。

2025年度は関係所管だけでなく、全職員が女性支援新法を理解し女性相談支援に基づく対応を共有するための職員研修の実施を予定しているとのことで、本市女性支援のさらなる充実を期待し、今後も注視していきます。



民間協働の女性支援について国立市を視察





## インクルーシブな市政を求めて 障がい者福祉と予算編成のあり方

新年度当初予算で既存事業への増額や新規事業の立ち上げが行われる際には、同事業内での事業見直し、整理によって予算を確保するのが原則となっています。障がい福祉事業においてはこのような見直しにより、当事者が必要な福祉サービスを受けられなくなる、支援者によるサービス提供が困難になる等の不利益が生じており、問題であると考え今回質問を行いました。

年度当初予算では、市政運営における最上位計画「八王子未来デザイン 2040」に示された方針に基づく重点事業に応じて、新事業への予算配分が行われています。そのため、その年度の重点事業を定める総合経営部、予算編成に大きな権限を持つ市長に、それぞれ障がい福祉事業の予算の現状と考え方について確認しました。利用者の増加に合わせて給付費が増大しているのが現状で、

限りある財源を効果効率的に運用し、今後も必要なサービス量を確保していく旨の答弁がありました。

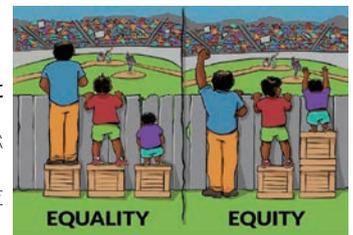
障がいのある方々のニーズを満たすことは生活する上で必要最低限の社会保障であって、障がい福祉事業の中で切り詰めを行い、そのために行政が効果効率でサービスを選別することに大きな違和感を覚えます。障がいのある方々にとっての社会的障壁を取り除き、格差を是正するのが公共の仕事ではないでしょうか。

そして、障がいのある人が暮らしやすいまち、障がいのない人にとっても暮らしやすいまち。

障がい福祉事業を充実させることは、誰にとっても安心して暮らせるインクルーシブなまちづくりに繋がることを理解し、大きな視点で予算配分を行うよう求めました。

◆障がい福祉事業を説明するために  
質問時に使ったパネル

左⇒同じ内容の支援を提供することが  
平等とされがちだが、  
右⇒それぞれの特性により必要な支  
援を行うのが障がい福祉事業の役割。



## 2025 年度八王子市予算 ケアを中心に据えた市政運営を 【反対の立場からの意見開陳より】

障がい者の地域移行を支える基幹相談支援センターの開設、外国ルーツの子どもたちの居場所となるキッズサロンの増設、多様な公共資源を活用した不登校支援、精神障がい者への早期訪問支援、そして孤独・孤立対策の充実など、福祉施策の新規事業や既存事業の充実を評価しました。また、川口土地区画整理事業において、南側の物流拠点整備により自然が失われたことは大きな損失ですが、北側公園エリアでは、これまで八王子・生活者ネットワークのわたしたちが強く要望してきた、砂防堰堤の見直しを含めた環境配慮型の整備が検討されており、その方向性で事業を進

めるよう求めました。

しかし個々に評価すべき施策がある一方で、予算編成の基礎となる「市民の安全・安心につながる取組」、また、3つの柱である「市内経済の成長・発展につながる取組」「日本遺産をはじめとする観光資源を活用した賑わいの創造に向けた取組」「八王子市を支える人材の確保・定着・育成を図る取組」の中に社会福祉の充実という視点が抜け落ちていると受け止め、全ての市民が安心して生活をし、安らぐことのできるまちづくりを進めていくための予算編成方針となっていないことから、反対しました。

## 再審法（刑事訴訟法の再審に関する規定） 改正を求める意見書

冤罪を晴らしたいと願う方々の再審請求に速やかに応え、検察が全ての証拠を開示した上で公正な審理を行うことを求める意見書に賛同しましたが、賛成少数により否決となりました。全国で3割にのぼる自治体が賛同の声を上げる中で本市で否決となったことは非常に遺憾です。

## 横田基地航路直下に騒音測定器常設 に関する請願

日米軍機航路直下の住民より、現在市が行っている年間2週間の測定では騒音被害の実態を把握できないとして、365日24時間騒音測定の実施を求めた請願で、八王子・生活者ネットワーク（金子玉正）は賛成しました。航路直下の久保山町会、小宮町会、高倉町会の3町会長が請願者であったにも関わらず、賛成少数で否決となりました。

市民からの請願が  
審議される場（常  
任委員会）もイン  
ターネット中継が  
必要です！

